

2013年1月14日-16日 金沢市文化ホール 能登

■ Day1 [Seminar Program]

国連食糧農業機関(FAO)が認定する世界農業遺産(GIAHS)に選ばれた能登半島の里山里海を保全し、持続的発展を目指す「国際GIAHSセミナー」が1月14日、金沢市文化ホールで開催された。金沢大学が中心に自治体と連携して運営する能登「里山里海マイスター」育成プログラムなどの主催によるもので、セミナーは、金沢大学を始めフィリピン大学、ドイツ連邦環境省、国連大学高等研究所、日本の食品企業などから講師とパネリストが講演と討論を展開した。大学や行政の関係者90人が参加した。

里山問題をグローバルに考え論じる

(文責:宇野文夫)



開催趣旨を説明する
中村浩二金沢大教授



主催者の金沢大学の中村浩二教授(生態学)は「里山と農業の問題をグローバルな視野で語る必要があるとあり、広がり持続可能性の点から人材養成は欠かせない」と挨拶した。基調講演に立ったフィリピン大学のイノセンシオ・ブオット教授(生態学)は、世界遺産にも認定されているイフガオ棚田の農家が耕し続けるために、「景観を商品として扱うのではなく、コミュニティの中で守るべきもの」と話し、科学的なデータをもとに生物多様性などモニタリングする必要があると大学の役割を強調した。

開会挨拶



金沢大学・教授、学長補佐 中村 浩二

基調講演

社会生態学的生産ランドスケープ(里山)の持続可能性を高めるための次ステップとしてのGIAHS

フィリピン大学教授 Inocencio Buot

マヒオ氏

講演 1

ブオット氏

「能登の里山里海」の課題と可能性 ～先進国におけるGIAHS～

金沢大学・教授、学長補佐 中村 浩二

講演 2



イフガオの棚田:社会・グローバル・文化的な視座から

フィリピン大学アジア研究所ディレクター・教授 Sylvano Mahiwo



講演 3

生物多様性条約のもとでの国際的義務の実施:ドイツにおける林業と森林保全を例として

ドイツ連邦環境省自然保護庁(BfN)森林担当官 Anke Höltermann

講演 4

アンケ氏

生物多様性を巡る科学と政策の対話

金沢大学・准教授 香坂 玲

香坂氏

講演 5



日本におけるGIAHSの進展と総合的評価手法の開発

国連大学サステナビリティと平和研究所
シニア・プログラム・コーディネーター 永田 明



講演 6



日本の里山・里海評価(JSSA)の経験と教訓～今後の展開に向けて～

国連大学高等研究所 フェロー 西 麻衣子



西 氏

永田氏

コーディネーター：金沢大学・准教授 香坂玲

パネリスト：株式会社アレフ ふゆみずたんぼプロジェクト 橋部 佳紀
前佐渡市長 高野 宏一郎、金沢大学・教授、学長補佐 中村 浩二
ドイツ連邦環境省と同自然保護庁 (BfN) 森林担当官 ANKE Höltermann
フィリピン大学教授 INOCENCIO Buot
フィリピン大学アジア研究所ディレクター・教授 SYLVANO Mahiwo



セミナー後半のパネル討論では、同じく世界農業遺産に認定されている佐渡市の事例などが紹介され、里山、農業、生物多様性、持続可能な社会が維持されるためには、農家、行政、大学、企業がそれぞれの立場で地域の取り組みを続けながら、グローバルに考える「グローバル」な発想こそ必要。そのために国際的な枠組みやネットワークづくりを進めることなどが話し合われた。 **「グローバル」な発想こそ必要**

■ Day 2 & 3 [Excursion to Noto Peninsula]

15日と16日には、30人が参加して能登の地域資源に触れるエクスカッションが行われ、輪島塗工房や千枚田、炭焼きの生産工場などを見学したほか、金沢大学の能登学舎で里山里海の人材養成プログラムの修了生と参加者が意見交換をした。



桐本木工所では、桐本順子さんが食べ飲み物の色味を映えさせ、表面硬度も高く、傷つきにくい普段使いに最適な漆の器を目指している、と説明。「収支が赤字になることもあるが、輪島塗職人の人材養成のためには長期の雇用が必要です」と説明した。



GIAHS Inc

パルビス氏と対話集会

2月19日

FAOのパルビス・クローハフカーン氏 (GIAHS議長) が珠洲市で開催される。




大野製炭工場で



能登学舎で海外からの講師、留学生、マスター修了生を交え、40人で意見交換会。能登のGIAHSの取り組みを紹介する泉谷満寿・珠洲市長 (中央)

